

教育的価値	具体の項目	教育課程
3【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	総合的な 学習の時間 特別活動



【題材】

「ヒーローの旅Ⅱ」

- 被災地を訪ね、大震災津波の被害の状況を見たり、被災者の話を実際に聞いたりして、大震災津波の被害の状況について理解を深めることをねらいとした。三陸鉄道「震災学習列車」を利用して、田野畑村の被災地の見学と久慈港、津波防災施設の見学を行った。

【対象】

全校児童

【実践の概要・詳細】

1 三陸鉄道「震災学習列車」乗車

- 三陸鉄道・沿線の大震災津波での被害の様子や復旧・復興の状況などを、三陸鉄道の列車に乗って久慈駅から田野畑駅までの車中で学習した。途中のポイントで、列車を止めて復興工事の現状を見たり、震災前や震災当時のパネル写真と比較したりしながら、説明を聞いたり、質問したりして、震災についての理解を深めた。
- 車窓からの三陸海岸の美しい景色を味わったり、「あまちゃん」の舞台になった場所を紹介してもらったりし、三陸のよさについても教えられた。



2 田野畑村「大津波語り部&ガイド」（被災者の話と被災地の見学）

- 「田野畑駅周辺」と「羅賀荘周辺」の2班に分かれて、実際に大震災津波を経験した方から震災のときの状況や苦労を直接聞いたり、河口付近の様子の変化を震災前や震災直後の写真と比較しながら見たりし、津波の恐ろしさを実感した。
- 被災者の思いや願いを直接聞くことができた。

3 久慈漁港「津波防災施設の見学会」

- 県北広域振興局土木部の協力により、久慈漁港の防潮堤の様子を見学し、実際に重さ7tの扉を閉めさせてもらう体験もした。
- 久慈港の防潮堤のかさ上げ工事について聞き、防災施設の役割と限界について理解を深めた。

【授業の展開】

ヒーローの旅Ⅱの事前学習として

(5・6年 総合的な学習の時間)「三陸鉄道のたたかい」(副読本「いきる かかわる そなえる」)

〈導入〉

「ヒーローの旅Ⅱ」で三陸鉄道の列車に乗ることを伝え、興味をもたせる。

〈展開〉

- ・「三陸鉄道のたたかい」を読む。

三陸鉄道の被害の様子や復旧への努力について読み取る。

- ・三陸鉄道の人たちの復旧への思いについて考える。

住民の人々も気持ちも考えさせ、復旧のための取り組み等について自分たちの経験や知っていることも合わせて出し合う。

〈まとめ〉

- ・三陸鉄道の人たちの思いや復旧への取り組みについてまとめ、三陸鉄道の「震災学習列車」での学習に興味・意欲を高めた。

【児童の感想】

「ヒーローの旅Ⅱ」で、田野畑村と久慈港に見学に行きました。

初めに、三陸鉄道の「震災学習列車」に乗りました。東日本大震災は、日本で一番大きな地震だったので、津波で野田防潮堤が崩れ、街の8割が流されたことも聞きました。

ガイドの方が、地震がきたら、津波に備えて、とにかく逃げることを何度も繰り返し言っていたので、それだけ大事なんだと思いました。

久慈港では、津波防災施設を見学しました。漁協の展望台は、港を見渡すことができ、下には、高さ8m、長さ2kmの防潮堤があった。防潮堤の7tもあるとびらを閉める体験もさせてもらいました。1年生の愛海さんと2人でも簡単に動いてすごいと思いました。とても厚くて重い扉が、津波から町を守ってくれているんだと思いました。

ここでも、防潮堤で守られてはいても地震がきたらすぐ逃げるのが大切だと教えてもらいました。田野畑のガイドさんも同じことを話していたので、命を守るためには、すばやく高いところに避難することが大切なんだということを学習しました。学習したことをこれからの生活に生かせるようにしたいです。

(6年男子)

【まとめ】

- ・被災地を実際に訪問し、被害の様子を目の当たりにすることで、大震災津波の恐ろしさや被害の甚大さを低学年の子ども達も含めて、実感することができた。
- ・被災した方から当時の様子や大変な苦労、復興への思いなどを直接聞き、深く考え、感じるすることができた。
- ・自分の命を守ることの大切さをどの場面でも繰り返し、訴えていただき、「海の近くで地震がきたら、急いで高い所に逃げる。」ということが、1年生を含めて、全員が、重要なこととして理解することができた。

